



西営農経済センタースイカ選果場

## 徹底した品質管理で秀品率も向上

最高の出来でスイカ出荷が6月下旬で終了。交配日表示による徹底した栽培管理に取り組み、品質の均一化が進み、秀品率も向上。市場関係者からも高い評価を受けています。

## すいか部会青年部が 初めての販売促進会

JA熊本経済連グループの直売所you+youくまもと農畜産物市場で5月2日、大玉スイカの販売促進会を開きました。消費者の声を聞き、更なる品質向上と栽培意欲に繋げようと青年部としては初めての試み。試食を提供し、「菊池すいか」をアピールしました。青年部員は17人。出荷最盛期のため当日は8人が午前、午後に分かれて参加。部員らが「僕たちが作りました。食べてください。菊池スイカです」と大きな声と笑顔で切りたてのスイカを勧めました。試食した客は「瑞々しくて食感がいい」「甘くておいしい」と話し、自宅用や知人に送るために買い求めていました。準備したLサイズの「春のだんらん」60玉は午前中で完売。午後に40玉を追加して販売しました。



販売会に参加した青年部員

## 黄色い果肉の「金色羅皇」 5月限定で2万玉出荷

「金色羅皇」は高糖度でシャリ感があり、果肉がしっかりとしているのが特長。口当たりが良く、強い甘みが人気を集めています。一方で、栽培は難しく、交配から出荷までの期間も長い手間がかかり、希少価値の高い品種として注目されています。部会員59人のうち20人が「難しい品種だがやりがいもある。部会の目玉になる」と期待を込めて栽培に取り組んでいます。市場関係者からの評価も上々です。



出荷前の査定会で色や食味、糖度を確認

## 花卉部会 新規就農を支援

## カスミソウ就農に向け日々研鑽

JA菊池は、新規就農支援研修を行っています。令和8年度は、4月から2人の研修生を受け入れています。2年間の研修を経て、就農を目指します。その一人、木下晴斗さんは祖父がカスミソウを栽培していた影響で花の魅力を知り、カスミソウでの就農を決めています。花卉部会の坂本悠三さんが受入農家として指導しています。木下さんは「現場での学びは、一つひとつが新鮮で充実した日々です。技術力を身につけ、自分の経営に取り入れていきたい」と話しています。坂本さんは、栽培記録は文字だけでなく、デジタルで管理する方法も伝授しています。



花の生育について受講する木下さん(右)と受入農家の坂本さん